

2012 年度（平成 24 年度）の温室効果ガス排出量について

1 温室効果ガスの総排出量

- ・ 2012 年度の温室効果ガス排出量は、77,410 千トン（二酸化炭素換算）。
- ・ 京都議定書の基準年度（原則 1990 年度）と比べ、0.5%の増加。
- ・ 前年度と比べると 3.9%の減少。

表 1 県内の温室効果ガス総排出量の推移

(単位：千トン-CO₂)

年度 温室効果 ガスの種類	1990	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	基準年度比 (%)	前年度比 (%)
二酸化炭素 (CO ₂)	73,223	76,228	78,586	82,005	81,630	81,943	82,366	82,413	83,137	75,851	72,528	72,593	77,809	73,971	1.0	-4.9
メタン (CH ₄)	367	323	322	324	314	316	301	309	309	302	285	282	292	276	-24.8	-5.6
一酸化二窒素 (N ₂ O)	758	1,094	1,196	1,307	1,264	1,278	1,299	1,298	1,292	1,162	1,146	1,184	1,166	1,160	52.9	-0.5
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	865	873	734	634	647	489	619	673	775	872	973	1,067	1,184	1,806	108.8	52.5
パーフルオロカーボン類 (PFCs)	165	111	93	86	84	87	81	85	88	50	38	43	58	76	-53.9	30.5
六ふつ化硫黄(SF ₆)	1,633	699	582	551	521	512	441	496	505	152	38	35	50	121	-92.6	141.6
温室効果ガス 総排出量	77,012	79,328	81,512	84,906	84,459	84,624	85,108	85,274	86,106	78,389	75,008	75,204	80,560	77,410	0.5	-3.9

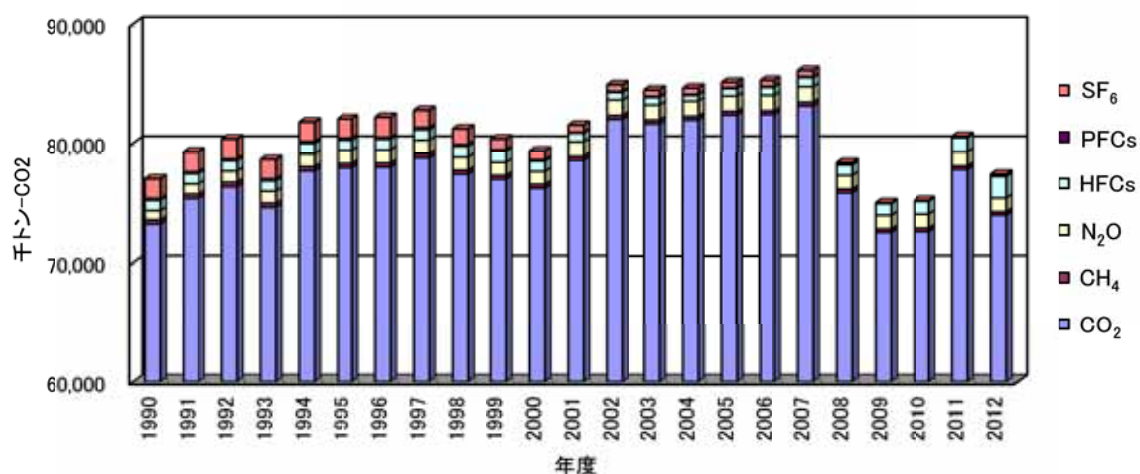
※HFCs、PFCs、SF₆の1990年度の排出量については、1995年度の排出量を記載。

図 1 温室効果ガス総排出量の推移

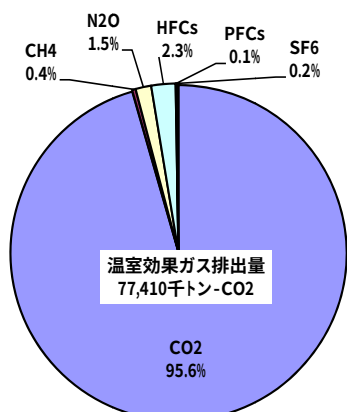


図 2 温室効果ガス総排出量の内訳

2 各温室効果ガスの排出状況

(1)二酸化炭素(CO₂)

2012 年度 73,971 千トン (10.0 トン／人)

基準年度比 1.0%増加 (9.0%減少)
前年度比 4.9%減少 (5.0%減少) } ()内は一人あたりの排出量

前年度からの減少は、主に、家庭部門・業務部門の排出量の減少による。

表 2 部門別二酸化炭素排出量の経年変化

(単位：千トン-CO₂)

																(単位：千トン・CO ₂)	
年度		1990	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	基準年度比 (%)	前年度比 (%)
部門名																	
エネルギー 起源CO ₂	産業	42,898	40,445	41,334	41,974	43,266	43,998	43,926	43,111	43,837	39,090	37,033	38,548	40,616	39,737	-7.4	-2.2
	民生家庭	7,315	8,761	9,282	10,159	9,533	9,196	9,522	9,872	9,927	9,375	9,201	8,629	9,886	8,755	19.7	-11.4
	民生業務	8,387	9,814	10,520	12,066	11,127	11,138	11,550	12,206	12,200	10,566	10,171	9,374	11,336	9,551	13.9	-15.7
	運輸	11,041	13,544	13,668	13,694	13,495	13,198	12,638	12,260	12,080	11,825	11,448	11,270	11,111	10,993	-0.4	-1.1
	エネルギー転換	1,481	1,409	1,577	1,956	1,818	1,920	2,123	2,203	2,293	2,184	2,152	2,401	2,376	2,378	60.6	0.1
	非エネルギー起源CO ₂	2,099	2,255	2,204	2,155	2,390	2,492	2,607	2,761	2,800	2,810	2,524	2,371	2,484	2,558	21.9	3.0
二酸化炭素 総排出量		73,223	76,228	78,586	82,005	81,630	81,943	82,366	82,413	83,137	75,851	72,528	72,593	77,809	73,971	1.0	-4.9

〔各部門の排出量について〕

○ 産業部門（工場等）

基準年度比で 7.4%減少、前年度比で 2.2%減少した。

前年度からの減少は、エネルギー使用量は増加したものの、電力量あたりの CO₂ 排出量が減少したこと等による。

○ 家庭部門

基準年度比で 19.7%増加、前年度比で 11.4%減少した。

前年度からの減少は、震災後の節電の取組によってエネルギー使用量が減少したことに加えて、電力量あたりの CO₂ 排出量が減少したこと等による。

○ 業務部門（オフィスビル・店舗等）

基準年度比で 13.9%増加、前年度比で 15.7%減少した。

前年度からの減少は、電力消費量の減少によってエネルギー使用量が減少したことに加えて、電力量あたりの CO₂ 排出量が減少したこと等による。

○ 運輸部門（自動車・船舶等）

基準年度比で 0.4%減少、前年度比で 1.1%減少した。

前年度からの減少は、ガソリン・ディーゼル車等の保有台数の減少等による。

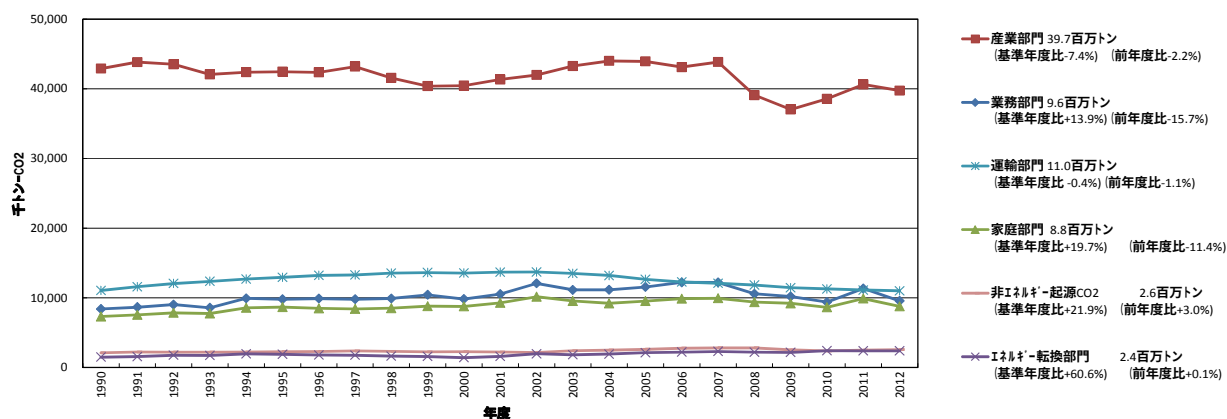


図3 部門別二酸化炭素排出量の経年変化

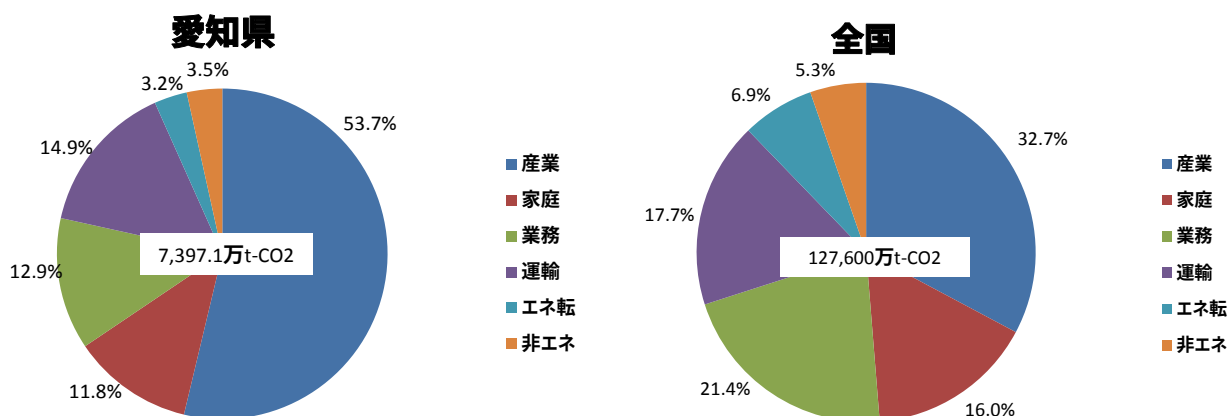


図4 部門別二酸化炭素排出量の構成割合（愛知県及び全国）

2012年度の愛知県内における二酸化炭素排出量は全国の5.8%を占めているが、基準年度（6.4%）に比べると減少している。

また、愛知県は産業部門からの排出割合が全体の53.7%を占め、全国と比べて高いが、基準年度（58.6%）に比べるとその排出割合は減少している。

(2)メタン(CH₄)

2012年度のメタン排出量は276千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると24.8%減少し、前年度と比べると5.6%減少した。

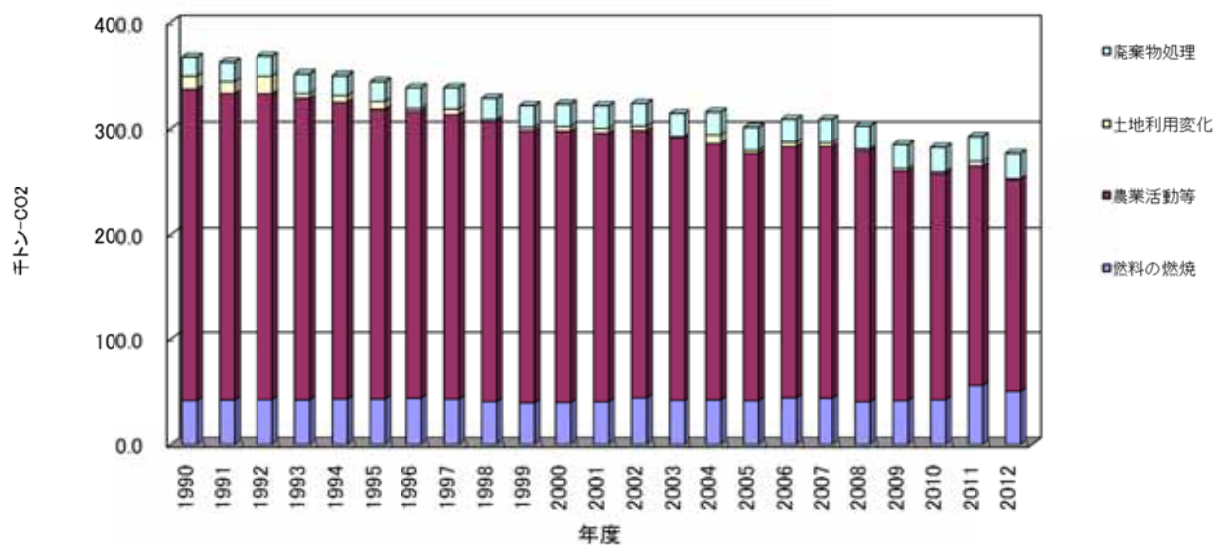


図5 メタン排出量の推移

(3)一酸化二窒素(N₂O)

2012年度の一酸化二窒素排出量は1,160千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると52.9%増加し、前年度と比べると0.5%減少した。

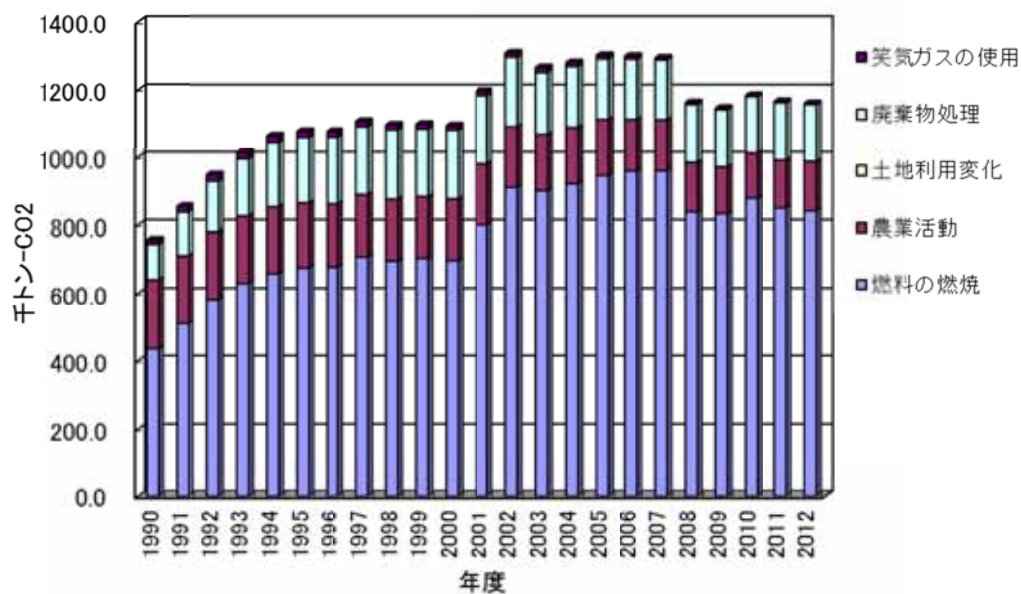


図6 一酸化二窒素排出量の推移

(4)ハイドロフルオロカーボン(HFCs)、パーフルオロカーボン(PFCs)、 六フッ化硫黄(SF₆)

2012 年度の HFCs 排出量は 1,806 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 108.8%増加し、前年度と比べると 52.5%増加した。

PFCs 排出量は 76 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 53.9%減少し、前年度と比べると 30.5%増加した。

SF₆排出量は 121 千トン（二酸化炭素換算）であり、基準年度と比べると 92.6%減少し、前年度と比べると 141.6%増加した。

代替フロン等 3 ガス全体では、基準年度と比べると 24.8%減少し、前年度と比べると 54.9%増加した。